

東武實錄

十三

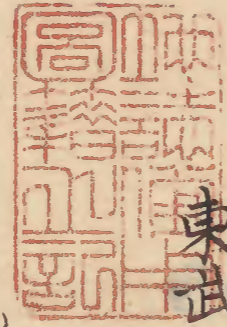
内閣文庫	
番號	和 36646
冊數	21 ()
函號	150 16

内閣文庫			
五	二	三	和
函	一	五	書
架	冊	號	類

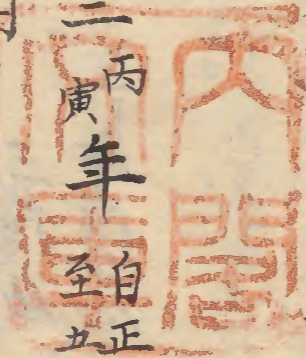
(七册)



東武實錄卷第十三



寛永三^丙年^寅正月朔日



將軍家西ノ丸ニ 渡御アリ 御座ノ間ニ於テ

公ニ御對顔御上擅ニ 御著坐御太刀大澤兵部太

輔基宿是ヲ披露ス 御引渡シ御雜煮御吸物出御

三献ノ御祝例ノ如ク事畢テ

將軍家還御以後列候以下 西ノ丸ニ登テ

公ニ謁シ歳且ヲ祝ス



同六日 新正ノ賀儀トシテ

禁裏工御太刀一腰御馬一疋ヲ獻セラル大沢侍従
基重 御使トシテ京都ニ赴ク

為年始之御禮以大澤侍従言上依仍御太刀
一腰御馬一疋令進上宣有 奏進也抄之

正月六日 御諱

三條及
中院及

兩傳奏ニ遣ハサルノ 御書

為年甫之祝儀太刀一腰馬一疋相贈以禮大沢
侍従可述也抄之

正月六日 御諱

三條及

為年甫之祝儀太刀一腰馬一疋相贈以禮大沢
侍従可述也抄之

正月六日 御諱

中院及

是日 松ノ丸ノ御方ヨリ年始ノ慶賀トシテ小

袖二重ヲ献スルニ依テ 御内書ヲ賜ル

同十二日 石川勘助正重卒ス

同十五日 浅野但馬守長晟鷹ノ鶴ヲ献スルニ

依テ奉書ヲ賜ル

是日 對馬侍從義成朝鮮ノ鶴并領國ノ鯨ヲ献

ス依テ奉書ヲ義成ニ賜ル

是日 松平土佐守忠義縹珍十卷ヲ献ス是ニ依

テ奉書ヲ賜ル

同十八日 能勢拱津守頼次卒ス六十五歳

同二十一日 永井豊前守直定上総國ニ於テ采

地三千三百石加賜セララル舊領統テ四千三百石

ヲ領ス

二月二十七日

公紀伊中納言頼宣郷ノ亭ニ 渡御アリ御相伴水

戸宰相頼房藤堂和泉守高虎猿樂 上覧アリ

同二十八日 猪子内匠一時卒ス八十五歳

頃年棠鷹ノ事猥ナルニ依テ 仰出サル、趣

免

一内宰相見出ルルノ事其子其子ハ石及

中彼人組者其子棠鷹ノ番を由

見出しし當人ふは徳義美可なり事
附新栄見出しし者六其年ハ名く山徳美
一倍可なり事

一 内蔵卿の菓をかくし又ハ一菓の内なる幣を
ぬきし山軍者をも曲事をもく
修治日
おつしといふやも其身ノ事ハ名友沙法一類
に可被行是罪事
附人經六親合たし事
一 内蔵卿をぬきの女もの事ハ女も控ぬ
因類よりといふももて料をゆり
内蔵卿

とて重なる格も可なり事

左可おるは昔老也仍執是也件

寛永三年乙亥二月日

三月朔日 内藤伊賀守忠重ニ平河口御門前本
多出羽守カ屋敷ヲ賜ル

同六日 加賀宰相利常嫁娶ノ御礼トシテ綿五
百把使者ヲ以テ是ヲ献スルニ依テ 御内書ヲ
利常ニ賜ル

同七日

將軍家紀伊黃門頼宣卿ノ家ニ
宰相頼房卿
來臨御相伴水戸

同八日 宗對馬守義成高庶鷹十五聡ヲ献スル
ニ依テ 御内書ヲ賜ル

同十一日 朝比奈勘右工門良恭ニ後左近小十人
組ノ頭トナリ采地ヲ加賜セラル
院番ノ組頭ト

是日 古田吉左衛門重則始テ

將軍家ニ謁ス
是ヨリ先キ伯父古田大膳大夫重治
酒井忠世ヲ以テ是ヲ願フノ處ニ重治卒ス存生
ノ願タルニ依テ今日 召シテ拜謁ス

同十五日 堀七郎五郎直時丹後守直始テ

両君ニ謁ス

同十九日 父世三左衛門廣宣始ノ名卒ス六十

五歳其子三四郎廣益父廣宣カ領采地五千石ヲ
賜ル

是月 酒井讚岐守忠勝ニ武州忍ニ於テ采地ニ
万石加賜セラレ舊領并テ五万石ヲ領ス

四月五日 入江源藏春重卒ス五十歳

同六日 参議利常鷹ノ扱ル所ノ鶴ヲ献スルニ
依テ 御内書ヲ賜ル

同十一日 内藤紀伊守信正横州大坂城代病病危急ノ由 台聽ニ達シ御心許ナク 思召サル、由奉書ヲ信正ニ賜ル

同十二日 神尾内記元勝後備前守ニ任ス御使トシテ

横州大坂ニ赴ク

是日 井伊掃部頭直孝病氣快氣ニ依テ二荷一

種ヲ献ス所勞驗氣悦ヒ 思召スノ由奉書ヲ賜

ル

是月 内藤紀伊守信正横州大坂ニ於テ卒ス五

十九歳

閏四月五日 細川三齋袴二具緞子ヲ献スルニ依

テ奉書ヲ賜ル

同七日 駿河中納言忠長郷二荷二種ヲ献シ去

ル朔日駿府ニ到着ノ旨使者ヲ以テ申上ケラル

ニ依テ 御内書ヲ忠長郷ニ賜ル

同十四日 薩摩宰相家久松平薩戸守帰國ノ御礼ト

シテ使者ヲ以テ沉香五斤焼物色々ヲ献ス是ニ

依テ 御内書ヲ家久ニ賜ル

同十五日 尾張中納言義直郷奈良酒両樽鮎二

桶ヲ献ス 御内書ヲ賜ル

同二十七日 本多中務太輔忠刻所勞再發ノ由
上聞ニ達シ 御心許ナク 思召サレ、由奉書
ヲ忠刻ニ賜ル

是日 井伊侍従直孝掃部領國ノ粟一箱ヲ献ス
是ニ依テ奉書ヲ直孝ニ賜ル

是日 細川三齋領國ノ素麩五箱ヲ献スルニ依
テ奉書ヲ三齋ニ賜ル

定

一人賣買一急停止あり、以照華、於有

其其種言とこと、或は最或は親合式
可為之淺事

附以入人者之同類之了

一 男女抱至多事、可限十年、十年迄
之可為也事

一 手負たる者を加へ、至危り、可為事

一 人馬貸し、雇通ひ者、事、可為之、係杖云
之者、可為通、可為之、切信止事

一 諸貸事、平地一里、事、可為之、上、浅
之者、可為事、可為親合、其、事、可為

遺科... 其外ハ... 百文
不可知事

右可... 此有... 仍... 山... 山...

寛永二年... 壬寅月... 日

是月

將軍家日光 御登山

五月三日 鍋島信濃守勝茂半弓ニ張懸硯二京
都二條ノ御城御庭ニ植ラルヘキ蘇鐵一本ヲ獻
スルニ依テ奉書ヲ賜ル

同五日 淺野但馬守長晟系鞭十掛御粹箱十御
衆物ヲ獻ス是ハ此度 御上洛ニ依テ也奉書ヲ
長晟ニ賜ル

同七日 本多中務太補忠刺美濃守政男播州姫路ニ
於テ卒ス三十一歳是ニ依テ 上使トシテ太田

采女正資宗神尾宮内少補守勝姫路ニ赴ク松平

半四郎重則是年内膳正ニ任シ忠刺内室公ノ御
娘後ニ
天揖院殿 御迎トシテ命ヲ奉テ播州姫路ニ赴ク

同十七日 織田兵部少補信良左近衛
権少將卒ス四十

三歳其子百助信昌後兵部太
補ニ任ス父信良力家督采地

二万石賜ル

同二十二日 藤堂和泉守高虎深湯帷子二百端

ヲ献ス依テ奉書ヲ賜ル且高虎カ所勞ヲ 問ハ

セ玉フ

同二十五日 永井佐九衛門盛安始テ

將軍家ニ謁ス

同二十七日 今度 御上洛ニ依テ 仰セ出サ

ル、御條目

條々

一 今度出仕の時可服道並町家之際除方右に依

在事

一 喧嘩口論火事其外如右程に依雖も案

邊以祖匠に事知なくして其身に事なく

論中人等有り出テ一切不可出入事

一 之反出仕中人並に之依に信正年自然

に事有テ 選所に及る方沙汰但重料

之考に各別之方有テ人ニ事可更

裁許事

一 踏次申下若重し御馬与り下りて其前

に傳へ者有テ 其後又有テ 其後

- 一 路次中 御免座刻馬より下りて後
- 一 乃次舟遠宵の宴と料浪子一夜
- 一 御月付の宴以禱事より外は向極仁合も
- 一 法度の中中即ち遠宵族曲事と事
- 一 馬上の際とこれあはれ者事馬取二人
- 一 當持一人字應元一人極遠の中と外若黨の
- 一 正列は辰お遠の事と事と料浪子一夜
- 一 騎馬の中と事と馬引入事と事と料浪子一夜
- 附 爲 正位人馬と名別と事

- 一 御供の時程籍考と事と其方の衆主人
- 一 去る料浪子隨控室又と依其の限可中付事
- 一 供食の時と口とと事高辨と事と
- 一 料浪子一夜
- 一 諸道具入交り通事と料浪子一夜
- 一 剪採竹木事と事
- 一 御供の及不承と事と諸具の限可料浪子
- 一 路次中と於御宿所御事と依江戸の及御
- 一 至月と如くと事

- 一 別人に宿札割り事と料限子と枚
- 一 自多し宿札割り事と料因り
- 一 二年能は村騎事と中へ角貝の文百老と事と料限子と枚

附筆交納額ハ石苦事

- 一 御宿へ寄るに法衣屋へ寄る事と料限子と枚
- 一 御宿へ寄るに法衣屋へ寄る事と料限子と枚
- 一 御宿へ寄るに法衣屋へ寄る事と料限子と枚
- 一 御宿へ寄るに法衣屋へ寄る事と料限子と枚
- 一 御宿へ寄るに法衣屋へ寄る事と料限子と枚

- 一 何事と云ふに以加りて中族因事
- 一 組頭之令一人り、殿中より可成借事
- 一 馬に聲と云ふ事、御宿へ寄る事と料限子と枚
- 一 御宿へ寄るに法衣屋へ寄る事と料限子と枚
- 一 御宿へ寄るに法衣屋へ寄る事と料限子と枚

右法衣可成打中事、仍扱色也如件

寛永三年庚子月廿七日

光

- 一 今度 所上諸所依之持路原中 所結成之音
- 面々 候之存及中下之儀可中付之事
- 一 宿之儀他所之儀之不在中 傍軍中ニ當
- 互ニ 振舞法可為之申事
- 附泊之宿之為用所之儀 下之所ありき之切為
- 被中ノ宿之儀 並看之儀 下之宿之儀 詳し之候
- 儀可中付事
- 一 宿原中 當草鞋以下其外何之儀 被買物
- 以時 賣之儀 今是之儀 亦又ハ 惡儀を量

一 理め候 以事 之儀 格又下之儀 可
中付事

一 如所定宿儀を申し 其外之の儀 之儀
を可中付事

附書札別事 之儀 外下之儀 出入
之儀 之儀 之儀 可中付事

一 宿原中 書札 之儀 之儀 之儀 之儀
之儀 之儀 之儀 之儀 之儀 之儀

一 身中 之儀 之儀 之儀 之儀 之儀 之儀
之儀 之儀 之儀 之儀 之儀 之儀

可事

一 系も右に詔遠宵十の事

寛永三年癸卯月廿七日

略次申宿賢の御定事

一人四文

一馬八文

但自今より薪多きなり人三或文三百四文馬
廐も亦く自今より薪多きは或文馬廐多
き二百文の薪なりた四文多る物
一 系多きなり廐多きなり外は禁自今より薪

禁多きも四文多る

處ありて多きなり

是月

將軍家内藤左馬助政長カ櫻田ノ家池上ノ亭ニ

渡御アリ 御遊覧晚景ニ及フ時ニ黄金三百兩

政長ニ賜ル其後

公モ政長カ池上ノ亭ニ 來臨アリ

今度 御上洛ニ付テ供奉ノ面々其分限ニ依テ

御扶持方下サレ、覺

受

一百石

七人

一百石

十人

一百石

十人

一百石

十一人

一百石

十二人

一百石

十三人

一百石

十四人

一百石

十五人

一百石

十六人

一百石

十七人

一百石

十八人

一百石

十九人

一百石

二十人

一百石

廿一人

一百石

廿二人

一百石

廿三人

一百石

廿四人

一百石

廿五人

一百石

廿六人

一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
或千石	一千九百石	一千八百石	一千七百石	一千六百石	一千五百石	一千四百石	一千三百石	一千二百石	一千石
三千四人	三千三人	三千二人	三千一人	廿九人	廿八人	廿七人	廿六人	廿五人	

一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
或千石	或九百石	或八百石	或七百石	或六百石	或五百石	或四百石	或三百石	或二百石	或一百石
三千五人	三千三人	三千二人	三千一人	三千一人	三千九人	三千八人	三千七人	三千六人	三千五人

一 三千二百石	卒二人
一 四千石	卒十人
一 四千五百石	卒七人
一 五千石	卒五人
一 六千石	百卒人
一 七千石	三百人
一 八千石	四百卒人
右之通	右之通

寛永三年寅九月日

今度 御上洛ニ依テ江戸ヨリ京都ニ至テ
 公供奉ノ面々ノ宿割

貳万貳百石	酒井阿波守
拾万貳千石	吉井大炊頭
五万貳千五百石	井上主計頭
八万七千五百石	永井信統守
三万六千五百石	吉岡大藏少輔
三万一千石	高力権津守
貳万二千石	松平左衛門大次
壹万八千石	板倉内膳正

壹万石
或千石

清少性家

千石

千石

千石

千石

千石

三千石

或千石

千石

千石

千石

千石

千石

千石

千石

千石

秋元但馬守

阿部修理亮

井上河内守

高力左近大夫

本多美作守

酒井左衛門守

松平伊左衛門守

吉田宗女正

島根備前守

三浦少輔守

吉原氏新少輔

松平兵衛守

戸田清路守

中多入三馬助

戸田次郎左衛門

三井右衛門

八木勘平郎

高田左衛門

山崎権八郎

八百石

六百石

千石

壹方三千石

三千石

三千二百石

御目付石

軍寄石

元田藤九郎

大塚少徳次

大塚大徳亮

高橋主徳正

弓馬出守

永井玄次郎

徳田兵四郎

森川了齋内

加代氏親少輔

四千石 誤テ記

二千五百石

或千六百石

或千石

千七百石

御使寄石

或千石

或千石

千石

千石

永井監物

海老中平郎

牧野清多郎

豊嶋主徳正

清水権三郎

天野徳左衛門

長谷川守三郎

今村信三郎

千石

千石

六百石

唐古り頭尻

四百石

組三千人

四百石

日

四百石

日

石河之右衛門

永田後左衛門

花井右左衛門

國部兵部

長谷川久三郎

少栗又市

千石

日

伊藤隼人正

千石

日

柳原左衛門

七百石

道之法身

辰部左輔

三百石

安栖法印

六百石

永善

市右衛門

四百石

松雲

二百二拾石

或百石

三百石

百石拾石

百石拾石

百石

所獲車馬

二百拾石

同心五人

五百石

速報傳内

志賀半兵衛

川副六兵衛

河津權兵衛

大保吉左衛門

星合吉左衛門

上卷九次郎

朝倉仁左衛門

同心五人

將軍家所使

駿河中納言殿使

尾張中納言殿使

紀伊中納言殿使

水戸宰相殿使

所獲所取

七百七拾石

或百石

神谷修左衛門

神谷又六郎

万入

或百石

或百石

佛納戸衆

堀谷彌九郎

神尾五郎

佛納戸衆十九人

佛納戸衆三人

倉橋庄兵衛

佛納戸衆廿人

六尺十人

矢部持經

同心十人

三千石

四百石

四百石

四百石

三百石

三百石

四百石

三百石

或百石

或百石

坂浦右衛門

落合少左治

上田吉次郎

高木甚右衛門

山田七右衛門

田中一守右衛門

新見弥三郎

横山友左衛門

建見七兵衛

松永源藏

武百石

二百石

二百石

二百石

二百石

二百石

二百石

二百石

二百石

二百石

所授物方尺

二百石

二百石

二百石

二百石

中書院裏井上之平頭組

武千石

百十石

二十石

尺

杉浦十兵衛

三郎

筒井内藏

石川六左衛門

井上次郎

鹿野少左衛門

米津左衛門

杉浦長藏

天野新五郎

関兵三郎

松波権平

飛山新五郎

三橋

平賀三郎

吉本善次郎

津田平左衛門

桑山内蔵

千九百石

千五百石

千石

千石

千石

千石

千石

千石

五百石

五百石

森伊豆守

森 左兵衛

松平日向守

松倉十左衛門

杉原重隆左衛門

西尾為三郎

前田左衛門

戸田掃部

吉田七左衛門

三宅玄助

八橋与右衛門

逢坂以左衛門

少出甚右衛門

島田久左衛門

横井左衛門

井戸右左衛門

森本左衛門

中島左衛門

御山燈組井上之斗頭組

武千石

武百石

三百石

三百石

三百石

五百石

五百石

五百石

安藤治右衛門

千石
千石
千石
千石
千石
千石
千石
千石
千石
千石

上原権平郎
西尾為吉清
真澤為八郎
伊丹花人
後部与千郎
仁賀保之集
村瀬傳花
圓部庄九郎
高木為七郎
三宅字兵清

三百石
三百石
三百石
三百石
三百石
三百石
三百石
三百石
三百石
三百石

高部惣六郎
多賀外記
川勝之儀
井上治兵衛
酒井仙三郎
如多分右衛門
川内仁兵衛
井田新八郎

半人組井上三平以組

七百石

大藏守七郎

五百石

少栗平吉

三百石

石谷十庵

二百石

石野傳八郎

二百石

宇津井九郎

百石

少西助十郎

百石

須藤孫三郎

百石

美濃新権三郎

百石

百石

御書院 永井信清

或千二百石

天方主馬

三千石

村上源助

或千石

志井其子清吉

千石

松植三四郎

千石

赤井六兵衛

千石

石丸孫三郎

千石

伏屋新助

千石

沼部氏初

千石

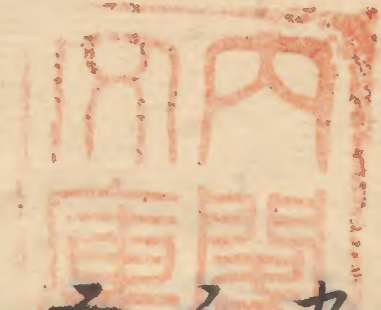
村越七郎左馬

千石

曾家孫五郎

千石

猪子治左馬



千石
九百石
五百石
三百石
二百石
二百石
二百石
二百石
二百石

三好伊九郎
水野周梅香
若川右馬助
稻生安房左馬
古田兵九郎
長崎彌左衛門
松植左衛門
龍樂三右衛門
中坊長左衛門
赤井玄房作

御心組 永井信濃守組

四十三拾石
貳千石
千七百石
千二百石
千拾石
千石
五百石
五百石
五百石

永井傳十郎
木造三右衛門
新七郎
岩瀬王丸内門
松平筑後守
松平久右衛門
稻村孫七郎
長岡玄吉
中山内記

三百石
二百石
二百石
二百石
二百石
二百石
二百石
二百石

半人組 永井信法少組

金森守三郎
戸田七内
前嶋久三郎
永井木之助
杉村孫九郎
岩瀬市兵衛
長崎久吉郎
少島長五郎
長坂直錢九郎

四百石
三百石
武百石
百石
百石
百石
百石
百石

小林權平
加茂市六郎
山本長兵衛
曲淵清茂
曲淵源治郎
横山源助
山本辰之助
栗原七之助

浄書院 善書 実花少輔組

三千石
二千石
或千石
或千石
千七百石
千石
千石
千石
千石

大久保良左衛門
庄田山左衛門
山田彦八郎
酒井作左衛門
多橋三郎
馬場三郎
三宅半七郎
杉田善右衛門
朽木與五郎
伊丹周悞

千石
千石
八百石
七百石
六百石
二百七拾石
二百石
千石
三百石

堀織部
加藤左内
大久保半七郎
長野清原左衛門
東條伴云齋
升平左馬助
松平甚三郎
大久保半左衛門
松平作十郎
佐藤与云齋

傳古姓組書之天冠の補組

或千石
千石
千石
千石
或百石
或百石
或百石
或百石

永見新右衛門
膝部中
加茂源太郎
内藤重直
吉山仙十郎
久見八兵衛
高森左衛門
水野十郎
戸田半平

或百石
或百石
或百石
或百石
或百石
或百石
或百石
或百石

園田内記
内藤重直
小栗又兵衛
高森清三郎
北條新藏
中川半平
細井喜三郎
大久保義十郎
水野左衛門
水野金十郎

或百石

若林兵九郎

半人組青山大藏少輔組

四百石

山林新平

三百石

多徳源右衛門

二百石

菅科孫九郎

或百石

比企次左衛門

或百石

酒依孫左衛門

百石

松原七平郎

百石

松平左内

或百石

梶山重平

二百石

真山茂左衛門

美濃七兵衛

御書院番松平左衛門左衛門

千石

松平忠房

或千石

川口久助

或千石

野一色右衛門

或千石

水野太郎他

或千石

石尾七兵衛

或千石

神保左衛門

千石
千石
千石
千石
千石
千石
千石
七百石
六百石

花房右馬助
印多丹后守
三淵總為助
川口茂左衛門
奥山次右衛門
堀右衛門左衛門
物野之入正
太左保源三郎
津金助之進
地川次郎左衛門

六百石
六百石
六百石
六百石
六百石
六百石
六百石
六百石
六百石

川藤左郎左衛門
花房勘右衛門
星右左衛門
加藤左衛門
中山左衛門
之右木左衛門
小倉十右衛門
水野清六
山之上左衛門

所由經延松平左衛門右衛門

千石
千石
千石
千石
千石
七百石
六百石
六百石
六百石
六百石

松平備前守
松平隼人正
甲斐守左衛門
日守部權九郎
榊原隼之助
西尾少左衛門
内藤六平郎
後込久左衛門
戸田半十郎
増内半三郎

三百石
三百石
三百石
三百石
三百石
三百石
三百石
三百石
三百石
三百石

尾川与兵衛
与兵衛三平
年禮弟五郎
与兵衛助三郎
榊原善九郎
少栗權兵衛
安藤一以三郎
西田佐助
水野九右衛門
榊原与左衛門

半人組松平右衛門方丈組

二百石

山下彌吉

二百石

伴 仙平

或百石

戸張山三郎

百石

星谷伴左衛門

百石

吉永彦左衛門

百石

木村彦八郎

百石

富永孫六郎

原田権右衛門

佛書院番格念内儀正組

三千石

柴田儀後守

三千石

沼 兵右衛門

三千石

少堀九郎左衛門

三千石

近藤登左衛門

或千石

内藤 梓郎

三千石

能勢治左衛門

千石

高橋大和守

千石

高田信房左衛門

千石

能勢小十郎

千石

能勢惣右衛門

五百石

小栗仁右衛門

四百石

堀田中左衛門

千石

近藤勘右衛門

三百石

松本権三郎

五百石

別所主水

五百石

堀江三右衛門

三百石

中川左衛門

貳百石

青木又四郎

五百石

松倉仁兵衛

五百石

大橋源三郎

千石

藤田忠高

清少性但松倉國信正

千石

物産藏部

千石

村越清次郎

五百石

松本友三郎

六百石

永岡権八郎

五百石

大坂新八郎

四百石

高坂重三郎

三百石

石丸権三郎

三百石
三百石
四百石
二百石
二百石
二百石
二百石
二百石
二百石

小十人組板倉内務正組

印多八半郎
井出甚之助
山出左之助
丸山左之助
伊东四子郎
牧野三兵衛
永田三子郎
浅岡権左衛門
横田内近

三百石
三百石
三百石
二百石
二百石
二百石
二百石
二百石
二百石

内蔵左七郎
中根喜左衛門
青木久左衛門
松野勘平
松本三郎九郎
西尾嘉右衛門
大木兵左衛門
内田勘右衛門

伊予院友秋元但馬守組

千石

内藤多正

或千石

牧野傳藏

千石

尾花滋守

千石

妻木彦右衛門

千石

佐々權左衛門

千石

下名根三郎

千石

別所友近

千石

真田長右衛門

千石

新庄内近

千石

南山彦三郎

八百石

根野長右衛門

七百石

若松又四郎

六百石

佐々三郎四郎

千石

三浦權六郎

六百石

池田権三郎

六百石

古方久兵衛

三百石

佐々雪八左衛門

或百石

日根野外記

或百石

溝口白江左衛門

武百石

木造七左衛門

佛心性組秋元但馬守組

千五百石

村之三十郎

七百石

駒木根七治郎

五百石

須井内記

五百石

成瀬吉平

五百石

山岡与左衛門

五百石

長谷川重隆

五百石

膳部三右衛門

五百石

山岡新太郎

五百石

新井隼人

二百石

和国庄之助

二百石

近藤少平郎

二百石

門家宗兵衛

牛人組秋元但馬守組

武百石

外山忠三郎

武百石

本岡権十郎

武百石

吉永与左衛門

百石

神保弥兵衛

百石

西岡十左衛門

百石

小島孫七郎

百石

桑野八右衛門

百石

廣戸半左衛門

百石

内宿宮内兵衛

千石

御延喜紀

千石

大久保左衛門

千石

若林和泉

千石

諸道具奉納

千石

佐々島右衛門

千石

土屋守右衛門

千石

書本吉左衛門

七百石

設樂市左衛門

五百石

菅原三右衛門

五百石

吉本左衛門

玉葉左衛門

五百石

井上外記

五百石

回付四郎兵衛

所幕奉行衆

或百石

加藤久左衛門

同心二十人

佛數寄金坊主

岸長左衛門

三百石

周齋

百石

笑雲

百石

笑仁

百石

宗母

百石

宗傳

佛云建坊主

文齋

法教寄金坊主

圓水汲 六人

五百石

福阿弥

府阿弥

佛意間坊主

六人

寄合衆

三千石

神尾刑部少輔

千石

大島公亮

千石

加茂伊織

同心或格人

千石

岡部主水

千石

朝比奈源吉郎

千石

池田圖書

千石

肥田主水

三百石

大河内平千郎

二百石

海老原右衛門

二百石

池川左門

二百石

山懐勘兵衛

森川左九郎

二百石

和岡右輔

侍勘定所

本多百助

二百石

太刀保左衛門

二百石

武藤理吉郎

二百石

下島市兵衛

二百石

松田九郎兵衛

二百石

井出十三郎

二百石

能登左衛門

侍所方

八百石

龍崎龍越右馬

二百石

龍崎龍源次郎

三百石

龍崎龍三郎

下目付流

二百石

芝村左源吉

二百石

實方右兵衛

二百石

高屋勘右衛門

二百石

高屋治兵衛

内藤左衛門

二百石

内藤左衛門

二百石

内藤左衛門

内持与步同心五人

二百石

久永源三郎

久永半兵衛

与方半兵衛同心五人

二百石

安倍四郎節

與方十騎同心二十人

千石

吉田善吉史

与方十騎歩同心三十一人

二百石

有施孫兵衛

与力十崎步同心平人

伊保炮队元

三千二百石

高木九兵衛

伊持同歩同心平人

二千石

横田甚右衛門

三百石

横田三郎兵衛

与力十崎歩同心平人

二千石

久世三四郎

与力十崎歩同心平人

二千石

永井吉左衛門

四百石

永井清左衛門

与力十崎歩同心平人

六百石

坪内越兵衛

坪内春吉郎

歩同心平人

五千石

加藤喜吉助

歩同心平人

千石

山田十太夫

与力十崎歩同心平人

三千石

井上吉左衛門

或千石

与平騎歩同心千人

与田右系

與方十騎歩同心三十人

青山大藏右輔所領陸奥

歩同心百人

五百石

淺井半兵衛

徳島見航

佐友傳助

佐友清兵衛

澤九郎兵衛

津長左衛門

尾崎新六郎

桑田孫六郎

大平左衛門

水野半兵衛

多田左衛門

林半左衛門

樋口右衛門

田沢庄兵衛

渡邊源左衛門

福回藤卷門
服多彌十郎
若林重千郎

同二十八日

公御上洛トシテ江戸ノ城御首途時ニ途中

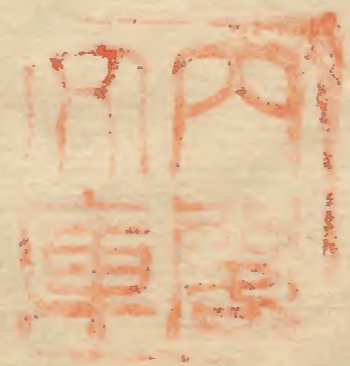
御機嫌ヲ窺ヒ奉リ江戸ニ注進スヘキ由

將軍家ノ釣命ヲ奉テ三浦志摩守正次

公ニ供奉シ京師ニ至リ江戸ニ歸テ御勇健ニ御

入洛ノ旨ヲ言上ス
脚道ヲ中以テ館ノ所々ヨリ継飛
御機嫌好キノ旨

毎日江戸ニ註進ス



同二十一日

公卿上落... 江... 城... 卿... 中

和... 江... 中

并... 中

公... 中

老... 中

